

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鳥栖市立田代小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指導力を向上させ、個に応じたきめ細かな指導と授業改善による学力向上が望まれる。</li> <li>・人権教育や道徳教育を充実させ、思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う必要がある。</li> <li>・安全教育、健康教育の充実により、児童の安全・安心な生活を実現することができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	共に学び心豊かにたくましく生きる児童
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善を図る。</li> <li>・思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う。</li> <li>・特別支援教育において校内支援体制や個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果目標を達成した教師80%以上	●全職員が「授業づくりのステップ1・2・3」を参考に指導方法の改善・授業力の向上を図り、学力向上対策評価シートのマイプランの成果目標達成を目指す。	B	・授業づくりのステップ1・2・3を意識した授業が多くなってきた。今後より進捗の確保が課題である。 ・学力向上対策評価シートのマイプランに全職員が自分が設けた目標に向かって取り組んでいるところがある。	B	・「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業が以前より多くなった。単元のふり返りはできるようになってきた。 ・2月末に学力向上対策評価シートのマイプランのふり返りを行った。コロナ禍ではあったが、全体として成果目標をおおむね達成できた。	A	・先生達はいろいろ工夫しながら授業を進めていると思う。授業参観でも、子ども達が一生懸命聞いたり頑張ったり取り組んでいる様子が見えた。 ・学力テストの結果から、読解力が不足しているのではないかと考えた。国語科だけでなく他の教科にも関わることを考える。
	○「話すこと・聞くこと」に重点を置き、思考・判断・表現力の定着に向けた授業の実践	○授業で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていると思うと答える児童80%以上	・授業中の話し合う活動を充実させるために、全職員が研究授業を公開するとともに、全教科の半分以上の授業で話し合う活動を設定する。	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、学習時間や活動内容が制限される中、全職員が研究授業を公開することができた。また、多くの授業において、児童が「話すこと・聞くこと」の活動に取り組むよう工夫していた。	A	・校内研究の児童アンケート結果を見ると「みんなで学び合うことで、自分の考えが深まった」と回答した児童の割合が約83%となり、意欲的に学習に取り組む態度が見られる。 ・継続研究していた国語科を柱に読解力、教科「日本語」や外国語などの授業を通して、すべての学級で「話すこと・聞くこと」の活動に取り組むことができた。	A	・全学年にタブレットが導入されると聞いたが、学校での指導だけでなく家庭学習でも活かせるよう効果も期待できると思う。
●心の教育	●児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートで肯定的な回答をした児童が80%以上	・人権集会や道徳の授業実践において、児童が人としての生き方を考えるきっかけとなる内容を盛り込む。 ・友だちのよいところや頑張りを見つけて「ほかほか通り」に貼って紹介しあう取り組みを行う。	B	・学年のどちらかのクラスで「ふれあい道徳」の実践をして保護者に児童と一緒に考える機会を設定した。 ・人権教育では、友達について考え、友達を大切にしていきたいという思いが広がった。 ・思いやり/読解力を考える機会を設け、各クラスの代表1名の標語を「きらきら通り」に掲示した。 ・友達の優しさ、がんばり見つけを各クラスで行い、「きらきら通り」に掲示した。みんなの友達のよいところを伝える機会を設けた。	A	・「友だちのやさしさ、がんばり見つけ」を呼びかけ、学級で伝え合ったり、きらきら通りに全児童分を貼ったりして意識化を図り、よさを見つける視点や関わり方が分かり、互いに豊かな人間関係づくりに活かされていた。	A	・学校内での子ども達同士も、地域とも交流活動がもつてほしい。新型コロナウイルス感染症のために難しいと思うが… ・子ども達からの挨拶はうれしい。登校班でも、上学年の子がすると下学年もよくなるが、上学年がしないと下学年も上にも習えるようにしたい。「挨拶は大事」と伝えていきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・事例研修等を含めたいじめへの対応についての研修・会議を毎学期行い、いじめに対する職員の意識や組織力を高める。	B	・毎週、生徒指導打合せを行い、問題事案の報告で情報の共有化と対策の検討を行っている。また毎月いじめに関する児童アンケートを全学級に実施を促しており、組織的な対応はできている。	B	・生徒指導打合せを、毎週行い問題事案の報告で情報の共有化と対策の検討を行うことができた。また、毎月いじめに関する児童アンケートを全学級に実施して組織的な対応はできていると答えた職員は80%以上であった。	A	・何事も小さなことの積み重ねだと思う。感謝の気持ちを持つ、表す、伝える。アドバイスは素直に受け入れる等、まずは、家庭(親)、地域、学校で連携して指導するとともに、自分自身で示していきたい。 ・登校班の世話をしていて、子ども達にいろいろな考えながら成長している様子が見えた。
	◎夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組む児童を育成するための教育活動	◎「将来の夢や希望を持っている」と答えた6年生児童75%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりを行う。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・コロナ禍ではあるが、話し合い活動や、自分の思いや考えを伝えること各教科の学習で取り入れてきた。その中で、「自分の夢や目標の実現に向けて意欲的に学習や活動に取り組んでいる」と答えた6年生児童が約90%と多かった。 ・コロナ禍の影響により、各種体験活動が十分に実施できていない。しかしながら、各学年において、学校行事や学年での活動の前夜、キャリアパスポート等を活用し、こまめに児童生徒の活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を実施したり、将来の夢や目標について伝え合う場を設けたりしてきた。その結果、「将来の夢や希望を持っている」と答えた6年生児童は約97%となり、目標を達成することができた。	A	・感染症対策を十分に意識しながら、引き続き話し合い活動、思いや考えを伝え合うことを各教科の学習で取り入れた。また、各学年において、学校行事や学年での活動の前夜、キャリアパスポート等を活用し、こまめに児童生徒の活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を実施したり、将来の夢や目標について伝え合う場を設けたりしてきた。その結果、「将来の夢や希望を持っている」と答えた6年生児童は約97%となり、目標を達成することができた。	B	・縦割り活動について聞いたが、一人っ子が増えていることやいじめ問題への対応としてもよい取組だと思う。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童80%以上 ●バランスのとれた食事が必要であると考える児童80%以上	・栄養教諭や養護教諭と連携し、望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を全学年で行う。	B	・望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を各学年で取り組むことができた。 ・後期も継続的に取り組み、「健康に食事は大切である」と考える児童を80%以上にしたい。	A	・望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を各学年で取り組むことができた。 ・後期も継続的に取り組み、「健康に食事は大切である」と考える児童(調査対象5年生)を94.3%から100%に増やすことができた。	A	・インターネットでのトラブルやスマホの使用制限・ルール作りについてよく耳にする中で、「ノートレブ・ノーゲーム・デー」の取組については、家庭で実践してみてもよいと思った。もっと増やしてみてもよいのではないか。そのことで、ネットトラブルが減ることだが、不規則な生活の改善やテレビ漬け、ネット依存といった問題への対応にもなると思う。
	○運動習慣の改善や定着化	○授業以外で1日に1時間以上体を動かした児童の割合70%以上	・スポーツチャレンジに積極的に参加する。 ・体を動かすことや昼休みの外遊びを奨励する。	C	・コロナ禍において、スポーツチャレンジへの参加や、外遊びを奨励することなどをどの程度推進してよいかかわらず、十分な取り組みができてきた。しかしながら、運動において体力を高めることは健康の保持増進につながるため、感染症拡大のリスクを十分に鑑み、今後取り組みを進めていきたい。	B	・コロナ禍ではあるが、運動において体力を高めることは健康の保持増進につながるため、感染症拡大のリスクを十分に鑑み、今後取り組みを進めていきたい。	B	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・行事や会議の精選・効率化(内容精選・時間設定・部会制での事前検討会の充実等)を行い、時間の有効活用を図る。	B	・定時退勤日については、かなり意識は高まってきたが、一部まだ十分でない。また、日常的に退勤時間が遅い職員へ声掛けやアドバイスにも努めている。 ・放課後の会議の精選や職員会議の内容精選に努めてきたが、コロナ対応や生徒指導関係での共通理解の必要性、急な生徒指導事案等で十分に時間を生み出すことはできていない。 ・年度行事の見直しを進め、縮小・削減を図っている。	B	・定時退勤日についての意識はまだ十分でなく、徹底に向け、遅い職員への声掛けやアドバイスに努めるとともに手立ても考えていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行事の見直し・削減の機会を得た。今年度を参考に、次年度も見直しを進める。 ・働き方改革の推進には、PTAや地域との連携も重要である。今年度はPTA執行部の理解を得た部分も多かった。	B	・子ども達の教育のためにも、先生達が心身共に健康であることが大事だと思う。定時退勤日の取組は大いに推進すべきだと考える。また、地域人材によるボランティアの導入も進めてはどうだろうか。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学年率100% ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を公開した学級率90%以上	・授業参観日における「日本語」授業を全学年で公開する。 ・学級だより等を通じて教科「日本語」に関する情報を公開する。	B	・10月の授業参観では、全学年が教科「日本語」の授業を公開することができたので、取り組み目標に到達できた。 ・教科「日本語」に関する情報を、学級だよりや週末のお便りや保護者に伝えた学級は、77%なので、後期も継続して取り組みを続け、90%に近づけた。	A	・授業参観がなかったため公開率は上がらなかったが、学校だよりで教科「日本語」についての記事も載せてもらったので、保護者へ知らせる良い機会となった。 ・校内研究で、全体授業研究会や部会別授業研究会に取り組んだ。	A	・マナー教室の取組はよいと思う。継続してほしい。挨拶については、地域社会での普段の挨拶にもつながるようにしてほしい。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○毎学期、特別支援教育に関する研修会・会議等を実施する。 ○UDを生かした授業づくりや支援に取り組んだ教師90%以上	・特別支援教育に関する研修会やケース会議を通して、情報共有を図るとともに、教員の専門性の向上を目指す。 ・「田代のUD教育」を全職員共通理解のもと実践する。	B	・特別支援学級担任の研修は毎週定期的に行い、情報共有と専門性の向上を図ることができた。また、特別支援学級担任が通常学級に入ること、対応の仕方を共有し、支援の必要児童の適正就学を進めることができた。 ・「田代のUD教育」を生かした教室環境作りを各学級で行った。また、授業作りのUD化を意識する教師も増えてきた。	A	・特別支援学級担任の研修は毎週定期的に行い、情報共有と専門性の向上を図ることができた。また、特別支援学級担任が通常学級に入ること、対応の仕方を共有し、支援の必要児童の適正就学を進めることができた。 ・「田代のUD教育」を生かした教室環境作りを各学級で行った。また、授業作りのUD化を意識する教師も増えてきた。	B	・地域社会で子ども達と関わっていても、特性への理解や対応の仕方など、特別支援教育の重要性を感じることもある。先生達全員がこれからも力をつけてほしい。 ・UD教育の取組について詳しく知りたい。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業に始まり、児童の学習活動や行事が制限された中で1年だったが、学校再開以降は、少しでも充実した学習活動にできないかと職員間で話し合いを重ねて実施の方法を探ったり工夫したりしながら、全体としては成果目標をおおむね達成できた。</li> <li>・全校での学習指導、生活指導の取組をより推進するために、組織・体制についての確認や見直しを進めてきた。次年度は、校務分掌を部会制とすることで、提案の具体化や練り上げを進めて会議の内容精選や時間削減を進める。また、校務分掌について共有化する機会が増えることで、職員分担の平準化、引継ぎの簡素化、職員個々の意識や能力の向上にもつなげたいと考える。</li> <li>・「学力向上」「心の教育」「健康・体づくり」それぞれにB評価の項目があった。中には家庭とのよりよい連携が進めば一層の効果が期待できるものもあるので、次年度の具体的取組の中で計画に取り入れた。</li> </ul>
--------------------	---